

南半球のリンゴ・ナシ年間収穫量予測

[FreshPlaza](#) 2025年2月12日

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、南半球のリンゴ生産量を前年比5.5%増と予想

フルーツロジスティカ(果実展示会)の開催に合わせて2025年2月7日にベルリンで開かれた総会で、世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は南半球の来シーズンのリンゴとナシの収穫予測を発表した。南半球の主要6カ国(アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、ニュージーランド、南アフリカ)のデータを統合した予測によると、リンゴの生産量は2024年と比較して5.5%増加すると見込まれる一方、ナシの収穫量は3.3%減少すると予想される。(原文の重複箇所を統合しました。)

リンゴに関しては、南半球の2025年の収穫予測として、昨年(449万9,328トン)と比較して5.5%増となる合計474万6,639トンが示唆されている。南アフリカは147万4,767トン(2024年から+3.4%)で最大の生産国としての地位を維持すると予想され、次いでブラジルが95万トン(+14.2%)、チリが92万トン(+0.7%)、ニュージーランドが54万4,949トン(+5.6%)、アルゼンチンが53万7千トン(+5.8%)、オーストラリアが31万9,923トン(+5.5%)と予想されている。

品種別では156万4,499トンのガラが群を抜いて最も人気があり、その量は2024年より6.8%多いが、過去3年間の平均を2.3%下回っている。

輸出も165万3,976トンに増加(+5.3%)すると予想されている。南半球の2大輸出国である南アフリカとチリはどちらも輸出量を増やし、それぞれ64万1,488トン(+5.5%)及び50万7千トン(+1%)に達すると予想されている。ニュージーランドの輸出量は9.7%増加する(合計376万106トン)と予想され、アルゼンチン(9万トン、+8.2%)及びブラジル(3万6,547トン、+14.6%)も輸出量が増加すると予測されている。

ナシに関しては、南半球の生産者達は、収穫量を微減(-3.3%)の合計144万6,970トンと予測している。南半球最大の生産国であるアルゼンチン(61万6千トン)は、10.9%の減と予想される。一方、南アフリカ(55万1,642トン)、チリ(20万8,025トン)、オーストラリア(6万2,467トン)は、それぞれ2.9%、3%、及び4.2%の生産量の増加が見込まれている。

パッカムズトライアンフは依然として最も多く生産された品種(60万1,322トン、2024年と比較して2.7%減少)であり、ウィリアムズボンクレティアン(28万8,729トン)がそれに続く。

輸出量も2024年からの減少となる合計68万9,155トン(-4.4%)と予想される。

プログノスフルーツ2024(2024年8月に開催されたヨーロッパのリンゴ・ナシ産業のイベント)で最初に発表されたEUの生産予測は、リンゴが1,038万8,550トン(2023年から9.7%減少)、ナシが179万2,839トン(+5.1%)に修正された。ヨーロッパの2025年1月1日時点のリンゴ在庫量は368万7,100トンで、2024年より4.3%少ない。一方、ナシの在庫量は合計60万8,544トンで、前年の数値を4.5%上回っている。

2024年の米国の予測生産量は、リンゴが537万6,986トン(2023年から-2.3%)、ナシが39万128トン(-21.5%)に更新された。米国の在庫量は、リンゴ(205万3,915トン)が2024年より3.9%少なく、ナシ(10万6,100トン)は26%減少した。

最後に、年次総会では、次回のプログノスフルーツは2025年8月6日から8日までフランスのアンジェ市で開催されることが確認された。イベントの詳細については、まもなくウェブサイト(www.prognosfruit.EU)で発表される。